

## II 情報交換推進事業

## 情報交換推進事業

### 1 実施機関及び担当者

高知県水産試験場

海洋資源科長	中 島 敏 男
主任 研究員	新 谷 淑 生
”	明 神 寿 彦
”	田ノ本 明 彦
”	柳 川 晋 一
研 究 員	梶 達 也

### 2 対象海域及び漁業種類

高知県地先沿岸及び沖合域におけるイワシ・アジ・サバ・カツオ等を対象とする漁業

### 3 実施期間

平成16年4月1日～平成17年3月31日

### 4 情報収集

漁協、漁業指導所、漁業情報サービスセンター、漁業無線局（漁船、調査船）及びその他関係機関から電話、ファックス、郵便、現地調査により情報を収集した。

### 5 広報の方法

新聞、ファックス、郵便、電話により漁業者、漁協、漁業指導所、漁業情報サービスセンター及びその他関係機関に広報した。同時に高知県漁海況ホームページに掲載した。漁海況速報発行状況は表1に示した。

なお、平成16年下半年（7～12月）の漁海況予報、平成17年上半年（1～6月）の漁海況予報は資料1,2のとおり。

また主要魚種、主要漁業種類別漁獲統計、調査地は 主要魚種・主要漁業漁獲統計に示した。

表1 漁海況速報発行状況

発行年月	回数	部数	備 考
16年 4月	4	83	7月 平成16年下半年（7～12月）漁海況予報 （資料1）  1月 平成17年上半年（1～6月）漁海況予報 （資料2）
5	3	83	
6	5	82	
7	4	81	
8	5	81	
9	4	81	
10	4	81	
11	5	81	
12	4	82	
17年 1	4	82	
2	4	82	
3	5	82	
計	51	981	

(資料1)

## 高知県長期漁海況予報

### 平成16年下半期(7~12月)の漁況・海況の予想(要約版)

平成16年7月発行 高知県水産試験場

## 海 況

### 【海況の経過(平成16年1月~6月)】

#### 1. 黒潮

昨年12月に九州南東沖で発生した小蛇行は、2月には東進し縮小したが、2月下旬に九州南東沖で再び小蛇行が発生した。この小蛇行はその後発達し、その東端は4月下旬には室戸岬沖に、5月下旬には潮岬沖に達し、四国沖に停滞した。

四国沖の黒潮は、足摺岬南方では1月は「接岸」~「著しく離岸」、2~3月は「接岸」~「かなり離岸」と離接岸を繰り返し、4~6月は「著しく離岸」で推移した。室戸岬南方では、1~4月は「接岸」~「やや離岸」で概ね接岸傾向であったが、5~6月は「著しく離岸」で推移した。

#### 2. 沿岸海況

土佐湾定線海洋観測結果による沿岸水温は、1月、2月ともに0~100mで「かなり高め」、200mで「やや高め」であった。

4月は0、200mで「かなり高め」、50、100mで「やや高め」、5月には0、50mで「やや高め」、100、200mで「かなり高め」、6月は0、200mで「かなり高め」、50、100mで「著しく高め」となった。

今年上半期の土佐湾沿岸水温は、以上のとおり高め傾向で推移した。(表2、3)

#### 3. 特異現象

##### 海況

- ・6月の土佐湾平均水温において、50、100mは過去最高水温、0mは過去2番目、200mは過去3番目の高水温(1975年以降、欠測年あり。)

##### 漁況

- ・特別採捕許可によるモジャコ漁の不漁(4~5月)
- ・5~6月足摺周辺マルソウダ(メジカ)曳縄漁の不漁(5月は過去15年間で最低の水揚量)
- ・5~6月土佐湾沖の竿釣船によるカツオが好漁(平成4~15年の月平均水揚数量の5月は2.5倍、6月は4.3倍)

### 【今後の見通し(平成16年7~12月)】

#### 1. 黒潮

6月末現在、四国沖に停滞中の小蛇行は、7月中に潮岬を越え、潮岬以東の黒潮流型は8月にA型(図3)となり期間中持続する。

四国沖の黒潮は、小蛇行の東進後は足摺岬沖では、接岸傾向で推移する。室戸岬沖では、黒潮流型がA型となることから離岸傾向が続く。

#### (根拠)

人工衛星による日本南方海域の海面高度データを利用した小蛇行の形成・発達・東進の予測手法及び類似年(1975年)の海況変動等による。

## 2.沿岸の水温

- 土佐湾 : 「平年並み」から「高め」で推移する。  
豊後水道東部海域 : 「高め」基調で推移する。  
紀伊水道外域西部海域 : 「平年並み」から「やや低め」で推移する。

### (根拠)

- ・高松地方気象台発表の「四国地方3か月予報」(6月24日発表、予報期間7~9月)によると、期間中の平均気温は「高い」。
- ・神戸海洋気象台発表の「平成16年夏季の南日本海区の海面水温予報」によると、南日本海区の海面水温は全般的に「平年並」と予想されている。
- ・近年、土佐湾の表面水温は高め傾向で推移している。
- ・類似年(1975年)の海況の傾向。

## 漁 況

### サバ類(マサバ、ゴマサバ)

#### 【漁況の経過(平成16年1~6月)】

##### 1 高知県

- (1)宿毛湾の中型まき網による総漁獲量(1~6月計、以下同じ)は1259トンで、前年同期(4233トン)、平年同期(1800トン、以下平年は平成5年~14年の平均値)を下回った。今期のサバ類はゴマサバ2歳魚が主体で、同3~4歳魚も少ないながら漁獲された。マサバは1、2歳魚が若干みられた。
- (2)釣(立縄・多鈎釣等、土佐清水・加領郷・室戸・甲浦4漁協合計)による総漁獲量は732トンで、前年同期(480トン)を上回り、平年同期(765トン)並であった。漁獲の主体はゴマサバ3歳魚以上であった。
- (3)定置網(窪津・加領郷・椎名3漁協合計)による総漁獲量は57トンで、前年同期(174トン)及び平年同期(228トン)を下回った。県東部の定置網における調査によると、今期のサバ類はゴマサバ3、4歳魚が主体で、マサバの混獲はわずかであった。また、県西部の定置網における幼稚魚調査によると、今期のゴマサバ0歳魚は、大量入網した昨年を下回る(前年比73%)ものの、平成11~14年を大きく上回る水準であった。マサバ0歳魚は増加傾向を示した前年を含めた過去5年間の平均を上回る入網であった。

##### 2 周辺各県の経過

- 宮崎県:まき網(北浦、島浦、青島の3港)による平成16年1~6月の総漁獲量は597トンで、前年(7153トン)・平年(2640トン、平成11年~15年の平均値)を大きく下回った。
- 愛媛県:豊後水道東部海域では平成16年4~6月の水揚げ量がゴマサバ主体に794トンであり、前年同期(3487トン)及び平年同期(1238トン、昭和59年~平成15年の平均値)を下回った。
- 和歌山県:紀伊水道外域2そうまき網は極めて低調に推移した(比井崎、御坊市、田辺での2~6月計460トン、対前年比46.3%、対平年比31.9%)。

#### 【予測(平成16年7~12月)】

- 来遊量:高知県海域全体でゴマサバ1歳魚は前年を下回る。また、マサバは依然低水準。  
宿毛湾周辺海域(豊後水道域)では、0歳及び2歳魚は少なかった前年を上回り、ゴマサバ全体として前年並みかやや下回る。サバ類全体としては前年並みか、前年をやや下回る。  
芸東海域(紀伊水道外域)では、サバ類全体としては前年並みか、前年をやや下回る。

#### 説 明:

ゴマサバ:ゴマサバは、黒潮域を中心に分布し、近年は伊豆諸島周辺海域以西においてもサバ類の中で混獲割合が高くなっている。高知県海域では平成2年以降ゴマサバが漁獲のほとんどを占

めている。近年の資源動向は、中位で横ばいである。

今漁期は、日向灘から豊後水道及び宿毛湾において総じて不漁であった。漁獲対象は2、3歳が主体であった。また、昨年同様各地で0歳魚が定置網や旋網への入網が目立った。

今年の太平洋側でのゴマサバ1歳魚の資源水準は、2歳魚より小さいが、0歳、2歳魚は比較的高いと期待される。また、予測期間中の黒潮流軸は、足摺岬沖で接岸基調と推測され、宿毛湾では黒潮から沿岸域への暖水波及が起りやすいことから、来遊が期待される。

マサバ：近年、太平洋側のマサバ資源は低水準、減少傾向にあると考えられている。このため、来遊はあまり期待できず、漁獲があっても不安定である。

## マアジ

### 【漁況の経過（平成16年1～6月）】

#### 1 高知県

(1) 宿毛湾の中型まき網による1～6月の漁獲量は315トンで、前年(87トン)を上回り平年(597トン)を下回った。今期の2～5月の漁獲は、1歳魚(15～19cm)が主体であった。

銘柄別では、150g以上の「アジ」が46トンで、前年(62トン)及び平年(121トン)を下回った。150g未満の銘柄「ゼンゴ」は269トンで、きわめて低調であった前年(25トン)を上回ったが、平年(476トン)を下回った。

(2) 定置網(窪津・加領郷・椎名3漁協合計)による総漁獲量は216トンとほぼ前年(181トン)並で、平年(344トン)の約63%であった。

#### 2 周辺各県の経過

宮崎県：まき網(北浦、島浦、青島の3港)による平成16年1～6月の総漁獲量は2856トンで、前年(1122トン)・平年(712トン、平成11年～15年の平均値)を大きく上回った。

愛媛県：豊後水道東部海域における4～6月の漁獲量は1925トンで、高水準であった前年(2077トン)は下回ったものの平年(1317トン、昭和59年～平成15年の平均値)を上回る水準であった。

和歌山県：紀伊水道外域2そうまき網では、2～3月に2、3歳魚主体に好漁であったが、4月下旬以降低調に推移した(比井崎、御坊市、田辺での2～6月計1240トン、対前年比115%、対平年比83%)。

### 【予測（平成16年7～12月）】

来遊量：宿毛湾周辺海域(豊後水道域)では、不漁であった前年は上回る。魚体は、0歳(尾叉長19cm以下)主体に1歳(20～24cm)も対象となる。

芸東海域(紀伊水道外域)では、前年及び平年を下回る。魚体は、0、1歳(24cm以下)が主体となる。

全体として前年並か前年をやや下回る。

説明：太平洋系群のマアジ資源は中位で減少傾向である。2004年生まれの発生はやや多い可能性がある。

0歳魚の今期の漁況は、薩南、日向灘、豊後水道東部で前年を上回り、豊後水道西部、熊野灘では低調と海域によって差が見られた。これは、2月以降九州南東沖に形成された黒潮小蛇行が4～5月に四国沖で停滞したため、来遊量に差が出たものと思われる。

1歳魚の今期の漁況は、鹿児島県海域、日向灘では前年を上回り、豊後水道、紀伊水道外域東部では、前年を下回った。

マアジの来遊には、黒潮から沿岸域への暖水波及との関係が見られる。予測期間中の黒潮流軸は、足摺岬沖で接岸基調と推測され、宿毛湾では黒潮から沿岸域への暖水波及が起りやすいことから、来遊が期待される。一方室戸岬沖では、黒潮は離岸基調と推測され、芸東海域で

は来遊量は多くないと考えられる。

## マイワシ

### 【漁況の経過（平成16年1～6月）】

#### 1 高知県

- (1) 宿毛湾の中型まき網による総漁獲量は13トンで、前年（38トン）と同様に平年（494トン）を大きく下回った。
- (2) 定置網（窪津・加領郷・椎名3漁協合計）による総漁獲量は24トンで、前年（31.6トン）と同様に平年（233トン）を大きく下回った。

#### 2 周辺各県の経過

宮崎県：まき網（北浦、島浦、青島の3港）による1～6月の総漁獲量は2トンと混獲程度であり、前年（80トン）、平年（2550トン、平成11年～15年の平均値）を大きく下回った。

愛媛県：6月に南部海域でまとまった水揚げがあり、4～6月の総漁獲量は442トンと前年を上回った。

和歌山県：紀伊水道外域において、3、4月に大羽群がまとまって漁獲された（南部町、串本漁協1そうまき網1～6月計718トン、平年（平成元年～15年の平均）比168%）。

### 【予測（平成16年7～12月）】

来遊量：高知県海域では低調であった前年を上回る。

説明：マイワシ太平洋系群の資源量は平成6年に100万トンを下回った後、平成7年から平成11年までは50万～80万トン台で低水準ながら比較的安定していた。しかし、平成12年から再び減少傾向が顕著となり、平成16年初めの時点では11.3万トンと推定されている。高知県でも0歳魚を主体に前年は上回ろうが、散発的な来遊で低水準が続くと考えられる。

## カタクチイワシ

### 【漁況の経過（平成16年1～6月）】

#### 1 高知県

- (1) 宿毛湾の中型まき網による総漁獲量は654トンで、前年（352トン）及び平年（339トン）を上回った。内訳は、幼魚（銘柄ドロ）は224トンで、前年（40トン）及び平年（102トン）を上回った。未成魚・成魚（銘柄タレ）の漁獲も430トンと前年（312トン）及び平年（237トン）を上回った。
- (2) 定置網（窪津・加領郷・椎名3漁協合計）による総漁獲量は82トンと、前年（143トン）及び平年（139トン）を下回った。

#### 2 周辺各県の経過

宮崎県：まき網（北浦、島浦、青島の3港）による総漁獲量は10411トンとほぼ前年（10984トン）並で、平年（13416トン、平成11年～15年の平均値）をやや下回った。

愛媛県：4月～6月の総漁獲量は1981トンで、前年（1124トン）及び平年（514トン、昭和59年～平成15年の平均値）を上回った。

和歌山県：シラス以外の未成魚・成魚はほとんど漁獲対象にしない。

### 【予測（平成16年7～12月）】

来遊量：高知県海域は前年並みからやや上回る。

説 明：カタクチイワシ太平洋系群の資源水準は過去 20 年では高位、5 年間では横ばい傾向にある。周辺の漁況から、平成 15 年生まれ群は平成 13、14 年生まれ群には及ばないものの高い水準を維持していると推測されている。また、平成 16 年生まれ群は産卵状況から高水準の加入が期待されるが、漁場への来遊については注視する必要がある。

## ウルメイワシ

### 【漁況の経過（平成16年1～6月）】

#### 1 高知県

- (1) 宿毛湾の中型まき網による総漁獲量は 360 トンで、前年(219 トン)を上回ったものの平年(588 トン)を下回る水揚げであった。
- (2) 定置網(窪津・加領郷・椎名3漁協合計)による総漁獲量は 64 トンで、前年(9 トン)、平年(25 トン)ともに上回った。
- (2) 今期の宇佐漁協の多鈎釣漁(土佐湾中央部)による総漁獲量は 111 トンで、ほぼ前年(133 トン)及び平年(114 トン)並であった。

#### 2 周辺各県の経過

- 宮崎県：まき網(北浦、島浦、青島の3港)による総漁獲量は1943トンで前年(2144トン)、平年(2033トン、平成11年～15年の平均値)をやや下回った。
- 愛媛県：4月～6月にかけての総漁獲量は807トンと前年(584トン)、平年(340トン、昭和59年～平成15年の平均値)を上回った。
- 和歌山県：紀伊水道外域では3月に大羽群がまとまって漁獲された(南部町、串本漁協1そうまき網、1～6月計229トン)。棒受網による当歳魚は4～6月に平年比120%の漁獲であった。

### 【予測（平成16年7～12月）】

来遊量：前年並みか前年を上回る。

説 明：ウルメイワシ太平洋系群の資源水準は過去 20 年の中で中位、動向は最近 5 年の推移から横ばい傾向にある。

本県の上半期の漁況はおおむね前年を上回って推移した。また、豊後水道東部では今後の主体となる当歳魚の漁獲が好調となっている。

## シラス

### 【漁況の経過（平成16年1～6月）】

#### 1 高知県

機船船曳網(安芸地区・春野町・錦浦・田野浦 7漁協合計)による総漁獲量は 1066 トンで、前年(403 トン)及び平年(447 トン)を大きく上回った。これらのおおむね大半は1～3月の好漁によるものであった。1月はウルメシラスとマイワシシラスが主体であったが、2月からはマイワシシラスが主体となり、3月中旬まで継続した。4月以降はカタクチシラスが主体となったが、黒潮の著しい離岸に伴い不漁となった。

#### 2 周辺各県の経過

- 宮崎県：県内8漁協における総漁獲量は1316トンで、ほぼ前年(1413トン)、平年(1301トン、平成11年～15年の平均値)並であった。
- 愛媛県：豊後水道中部の吉田町漁協における4～6月の共販取扱量は15トンであり、前年比37%、平年比28%と低調であった。
- 和歌山県：紀伊水道内(箕島町漁協)におけるパッチ網(17統)の春漁は、カタクチイワシ

ラス主体で過去にない好漁であった（箕島町漁協4月、平年の1.9倍）。

### 【予測（平成16年7～12月）】

来遊量：土佐湾では前年並みから前年をやや下回る。

説明：本県も含めた鹿児島西部から常磐南部の各地ではカタクチイワシ親魚群の密度が高く、卵の分布量も多い。一方、土佐湾ではこれらの条件に加えて海況がシラスの漁場への加入や滞留などの来遊水準を大きく左右していると考えられる。また、土佐湾では12月までは他の海域と同様にカタクチシラスが漁獲の主体であるが、12月以降はウルメシラスとマイワシシラスが主体となると予想される。このため予測は困難であるが、産卵量や親魚量、近年の漁獲動向等を考慮すると、近年では比較的好漁であった前年並みからやや下回る漁獲となる見込み。

（資料2）

## 高知県長期漁海況予報

### 平成17年上半期(1～6月)の漁況・海況の予想（要約版）

平成17年1月発行 高知県水産試験場

#### 海 況

#### 【海況の経過（平成16年7月～12月）】

##### 1．黒潮

四国沖を東進中の小蛇行は、7月下旬にその西端が足摺岬沖を通過し、8月上旬には室戸岬沖を通過しました。

これにともない、足摺岬沖では7月上、中旬は「著しく離岸」、7月中旬から7月下旬に「かなり離岸」から「接岸」へ移行しました。室戸岬沖では7月上旬から下旬は「著しく離岸」し、8月上旬には「やや離岸」となりました。

その後は、足摺岬沖では「接岸」～「やや離岸」、室戸岬沖では「やや離岸」で推移しました。

##### 2．沿岸海況

土佐湾定線海洋観測結果による沿岸水温は、前半は高め傾向で推移しましたが、後半には平年並みとなりました。

月別に見ると、7月は0、50mで「かなり高め」、100、200mで「やや高め」、8月は0、200mで「やや高め」、50、100mで「著しく高め」で推移しました。9月は0、100mで「平年並み」、50mで「かなり高め」、200mで「やや高め」、10月は0、100mで「やや高め」、50mで「かなり高め」、200mで「平年並み」、11月は0、50mで「やや高め」、100、200mで「平年並み」、12月は50mで「やや高め」のほかは、「平年並み」で推移しました。

##### 3．特異現象

##### 海況

- ・8月の土佐湾平均水温において、50mは過去3番目、100mは過去4番目の高水温（1975年以降、欠測年あり）。

##### 漁況

- ・足摺岬周辺のゴマサバ漁場では、7月下旬～8月に水揚げされたゴマサバの体長組成が小型魚に偏り、40cm以上の大型個体が減少しました。これは、立縄漁場に0歳魚（尾叉長21～27cm）が大量に来遊し、大型魚の漁獲を妨げたためです。

芸東（室戸岬周辺）海域の大型定置網でも8月に200g以下の0才魚が大量に入網しました。このようなゴマサバ小型魚の大量来遊は1999年以來のことで、両岬周辺海域で目立ち

ました。また、足摺岬沖合では、漁業者は小型魚を避けて沖合の漁場で操業したため、7、8月の漁獲量が減少しました。

- ・上半期から引き続き、メジカが不漁(7～10月の漁獲量が1986年以降最低)で推移しました。
- ・県下全域でタチウオが好漁でした。この傾向は紀伊水道、豊後水道域でも同様です。

## 【今後の見通し(平成17年1～6月)】

### 1. 黒潮

12月現在、A型流路(大蛇行流路)の黒潮は、期間中もA型が継続します。

四国沖では、足摺岬沖で「接岸」、室戸岬沖で「やや離岸」の状態が継続しますが、2月前半に九州南東沖で小蛇行が形成され、その東進にともない3～4月に足摺岬沖でも一時離岸します。

### (根拠)

人工衛星による日本南方海域の海面高度データを利用した小蛇行の形成・発達・東進の予測手法によっています。

### 2. 沿岸の水温

土佐湾 : 「平年並み」から「高め」で推移する。

豊後水道東部海域 : 「平年並み」から「高め」で推移する。

紀伊水道外域西部海域 : 「平年並み」から「やや低め」で推移する。

### (根拠)

- ・高松地方気象台発表の「四国地方3か月予報」(12月22日発表、予報期間1～3月)によると、期間中の平均気温は高い。
- ・類似年1975～1976年の傾向
- ・近年、土佐湾の表面水温は高め傾向で推移している。

## 漁況

### 1. サバ類(ゴマサバ及びマサバ)

#### 【漁況経過(平成16年7月～平成16年11月)】

##### 1. 高知県

(1)宿毛湾の中型まき網による漁獲量は1575トン(以下、漁獲量は期間中の合計を示します。)で、前年比160%、平年(以下、平年とは平成5年から平成14年の10年間の平均値を示します。)比162%と好調でした。まき網漁獲物の体長測定結果では、全てがゴマサバで、魚体は平成16年生まれ(尾叉長20～27cm)及び平成15年生まれ(尾叉長28～33cm)が主体でした。

(2)定置網(窪津・加領郷・椎名3漁協合計)による漁獲量は246トンで、低調であった前年比267%、平年比113%とまずまずの漁模様でした。

定置網漁獲物の体長測定及び芸東地区3漁場(椎名、高岡、加領郷)の定置網入網調査等の結果では、95%以上がゴマサバで、平成16年上半期は600g/尾以上の大型高齡魚が漁獲されていましたが、下半期にはこれらは見られなくなり、平成15年、16年生まれ(400g/尾以下)が主体の漁模様となりました。特に平成16年生まれ(300g/尾以下)は、8月を中心に大量に入網しました。

(3)釣(立縄・多鈎釣等、清水・加領郷・室戸・甲浦4漁協合計)による漁獲量は441トンで、前年比60%、平年比65%と低調でした。

下半期にはマサバの混獲がなくゴマサバのみでした。土佐清水市漁協での立縄漁獲物の体長測定結果では、ゴマサバの魚体は30～45cmの範囲でした。7月下旬～8月は小型魚が多くなり、40cm以上の大型個体が減少しました。これは、立縄漁場に平成16年生まれ(21～27cm)が大量に来遊し、大型魚の漁獲を妨げたためと考えられます。このような現象は1999年以来のことです。ま

た、漁業者は小型魚をさけて遠い漁場での操業となったことで、7、8月の漁獲量が減少し、下半期の漁獲量減少に影響したものと推測されます。

## 2 周辺各県の経過

宮崎県：まき網(北浦、島浦、青島の3港)による平成16年7～11月の総漁獲量は2152トンで、前年比67%、平年比122%(平成11年～平成15年の平均値)でした。

愛媛県：豊後水道では南部を中心にゴマサバ主体の漁場が形成され、総漁獲量は2241トンと前年(2795トン)を下回り近年(1965トン、平成11年～平成15年の平均値)をやや上回りました。

和歌山県：紀伊水道外域の2そうまき網による漁獲量はゴマサバ主体に1440トンで、前年比77%、平年比46%でした。熊野灘定置網はゴマサバ0才魚主体の低調な漁模様となりました。

### 【漁況予測(平成17年1～6月)】

(1)漁獲対象：平成16年生まれ及び平成15年生まれ主体。平成14年生まれ以上はわずか。

(2)来遊水準：

・宿毛湾周辺海域では、ゴマサバは平成16年生まれ及び平成15年生まれ主体の来遊で、不調であった前年を上回り、平年並と思われる。なお、海況条件が良好であれば、土佐湾西部海域に大量に滞留していると思われる平成16年生まれの来遊が見込まれ、平年以上の好漁となる可能性も考えられます。

マサバは低水準とされます。

・土佐湾以東の海域では、ゴマサバ2才魚(平成15年生まれ)以上主体の来遊で、2才魚の来遊量があまり見込まれないので、不漁であった前年並で、平年を下回るとされます。3才魚(2002年級群)以上の来遊は少ないと考えられます。

マサバは低水準とされます。

説明：

ゴマサバ：ゴマサバ太平洋系群の資源水準は中位、動向は減少傾向でしたが、平成16年生まれは太平洋岸全域で高い来遊水準であると予想されています。これらは、四国沖合海域にも多く滞留しているものと思われ、宿毛湾海域では沖合からの暖水波及により、多くが輸送される可能性があります。一方、平成15年生まれはこれまでの調査や漁況経過から資源水準は低いと考えられており、あまり来遊を期待できません。また、平成14年以前生まれの残存資源量は多いとはいえ、多くを期待できない状況です。

マサバ：マサバ太平洋系群の資源水準は低位、動向は減少傾向にあると考えられています。伊豆諸島周辺海域以西では、来遊するサバ類のうちマサバの割合は低く、高知県海域も近年は同様の傾向です。平成16年春季には、沿岸に来遊するサバ類稚魚に占めるマサバの割合が高くなりましたが、資源の増減にどの程度影響するかは全くの未知数です。したがってマサバの来遊はあまり期待できず、漁獲があっても散発的でしょう。

## 11 マアジ

### 【漁況経過(平成16年7月～平成16年11月)】

#### 1 高知県

(1)宿毛湾の中型まき網による漁獲量は1431トンで、前年比328%、平年180%と好調でした。銘柄別にみると、150g/尾以上の「アジ」は178トンで、前年比88%、平年73%とやや不調な漁模様でしたが、150g未満/尾の「ゼンゴ」は1253トンで、前年比540%、平年227%と好調で全体の漁獲量を大きく押し上げました。

魚体は、まき網漁獲物の体長測定結果および銘柄別漁獲量から、7月以降は平成16年生まれ(0才魚 尾叉長 10～17cm)主体に1才魚以上(18～27cm)が混獲されたと考えられます。

(2)定置網(窪津・加領郷・椎名3漁協合計)による漁獲量は93トンで、前年比49%、平年68%と低調でした。

魚体は、芸東地区3漁場漁協(椎名、三津、高岡)における定置網入網調査等の結果及び体長測定結果によると100g未満/尾が多かったことから、平成16年生まれが主体であったと考えられます。

## 2 周辺各県の経過

宮崎県：まき網(北浦、島浦、青島の3港)による平成16年7~11月の総漁獲量は4668トンで、前年比115%、平年比170%(平成11年~平成15年の平均値)でした。

愛媛県：豊後水道では中部、南部主体に漁場が形成され、総漁獲量は4303トンと前年(2861トン)及び近年(1999トン、平成11年~平成15年の平均値)を上回りました。

和歌山県：紀伊水道外域2そうまき網による漁獲量は低調であった前年並みで、平年を下回り低水準でした(比井崎、御坊市、田辺7~11月計1026トン、対前年比107%、対平年比81%)。

### 【漁況予測(平成17年1~6月)】

来遊量：

(1)漁獲対象：0才魚(平成17年生まれ)、1才魚(平成16年生まれ)、2才魚(平成15年生まれ)以上

(2)来遊水準：

- ・宿毛湾周辺海域は平成16年生まれが主体となり、前年および平年を上回る来遊が見込まれます。
- ・土佐湾以東の海域では平成17年生まれ及び平成16年生まれ主体の来遊があります。2才魚以上は少ないでしょう。全体では前年を上回る見込みです。

説明：

宿毛湾では、下半期の銘柄「ゼンゴ」漁獲量が多くなれば、翌年上半期の「ゼンゴ」の漁獲量も多くなる傾向があります。これは、下半期の「ゼンゴ」はその年生まれで、それが引き続き翌年の上半期の「ゼンゴ」の主体となるためです。平成16年下半期は、「ゼンゴ」が好調であったことから、宿毛湾周辺海域には平成16年生まれが主体となり、前年および平年を上回る来遊があると思われる。

- ・土佐湾以東の海域では通常0才魚及び1才魚主体に来遊があります。0才魚(平成17年生まれ)は上半期後半に来遊するものと考えられますが、まだ産卵されておらず来遊水準を予測するのは困難です。1才魚(平成16年生まれ)の資源水準は平年並と考えられていることから、当海域への来遊は前年を上回るものの、平年をやや下回ると考えられます。2才魚以上は少ないでしょう。全体では前年を上回る見込みです。

マアジの0、1才魚の来遊は、海況条件と関係があります。従って、両海域ともに黒潮の離接岸による来遊量の変動が考えられます。

## III マイワシ

### 【漁況経過(平成16年7月~平成16年11月)】

1 高知県

(1)宿毛湾の中型まき網による漁獲は964トンで、前年(1トン)を大きく上回り平年比482%でした。

(2)定置網(窪津・加領郷・椎名3漁協合計)による漁獲量は44トンで、前年比338%、平年比72%でした。

魚体測定結果から、まき網、定置網ともに0才魚(平成16年生まれ)主体に1才魚(平成15年生まれ)も漁獲していたと考えられます。

## 2 周辺各県の経過

宮崎県：まき網(北浦、島浦、青島の3港)では9月に20kgの水揚げがあったのみでした。

愛媛県：豊後水道では南部に漁場が形成され、総漁獲量は750トンで前年(176トン)及び近年(134トン、平成11年~平成15年の平均値)を大きく上回りました。

和歌山県：串本漁協 1 そうまき網では 7 月に若干の漁獲がありましたが、以降は低調に推移しました（南部町、串本 1 そうまき網 90 トン、前年比 58%、平年比（平成 6 年～平成 15 年）33%）。

【漁況予測（平成 17 年 1～6 月）】

- (1) 漁獲対象：1 才魚（平成 16 年生まれ）主体
- (2) 来遊水準：低水準であった前年は上回りますが、散発的な来遊とされます。

説明：

マイワシ太平洋系群の資源量は、平成 7 年から平成 11 年までは 50 万トンを超えて低水準ながら比較的安定していました。しかし平成 12 年から再び減少し、平成 14 年以降は約 11 万トンと極めて低水準にあると推定されています。一方、平成 16 年生まれのマイワシは、土佐湾でシラスとして 1～3 月に多く漁獲された後、体長 12～15 cm 前後で豊後水道南部～紀伊水道外域（高知県含む）と駿河湾、相模湾で比較的多く漁獲されました。この平成 16 年生まれの魚を主体として、今期は前年を上回る来遊量が期待されます。しかし、太平洋全体のマイワシ資源の水準はまだ回復していないことから、散発的な来遊と考えられます。

#### IV カタクチイワシ

【漁況経過（平成 16 年 7 月～平成 16 年 11 月）】

1 高知県

- (1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲は 215 トンで、前年（130 トン）を上回り平年（231 トン）並でした。銘柄別では幼魚の銘柄「ドロ」は 18 トンで前年（0 トン）を上回り平年（54 トン）を下回りました。未成魚・成魚の銘柄「タレ」は 197 トンと前年（130 トン）、平年（176 トン）を上回りました。
- (2) 定置網（窪津・加領郷・椎名 3 漁協合計）による漁獲量は 22 トンで前年（2 トン）、平年（11 トン）を上回りました。

2 周辺各県の経過

宮崎県：まき網（北浦、島浦、青島の 3 港）による平成 16 年 7～11 月の総漁獲量は 1302 トンで、前年比 64%、平年比 44%（平成 11 年～平成 15 年の平均値）の低水準でした。  
愛媛県：豊後水道では中部を中心に漁場が形成され、総漁獲量は 2915 トンと前年（1401 トン）近年（1287 トン、平成 11 年～平成 15 年の平均値）を上回りました。  
和歌山県：シラス以外の未成魚、成魚はほとんど漁獲対象にしていません。

【漁況予測（平成 17 年 1～6 月）】

- (1) 漁獲対象：0 才魚（平成 17 年生まれ） 1 才魚（平成 16 年生まれ）。
- (2) 来遊水準：前年並みから前年を下回るとされます。

説明：

カタクチイワシ太平洋系群の資源水準は過去 20 年の中では高く、動向は横ばい傾向にあります。しかし、平成 16 年生まれ群は、各地でシラスが不漁であったこと、秋に房総～北海道東部にほとんど出現していないこと等から、その水準が低い可能性があります。本県海域でも前年並みから前年をやや下回る来遊量になると考えられます。

#### V ウルメイワシ

【漁況経過（平成 16 年 7 月～平成 16 年 11 月）】

1 高知県

- (1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲量は 689 トンで、前年（427 トン）、平年（510 トン）を上回り

ました。

- (2) 定置網（窪津・加領郷・椎名3漁協合計）による漁獲量は53トンで前年（59トン）をやや下回り、平年（91トン）を下回りました。
- (3) 宇佐漁協の多鈎釣漁（土佐湾中央部）による漁獲量は9トンで前年（24トン）、平年（16トン）を下回りました。

## 2 周辺各県の経過

宮崎県：まき網（北浦、島浦、青島の3港）による平成16年7～11月の総漁獲量は2927トンで、前年比102%、平年比117%（平成11年～平成15年の平均値）でした。

愛媛県：豊後水道は南部を中心に漁場が形成され、総漁獲量は847トンで、前年（806トン）及び近年（592トン、平成11年～平成15年の平均値）を上回りました。

和歌山県：串本および南部町漁協の棒受け網は7月を除き低調で、前年比49%、平年比36%（平成6年～平成15年）でした。また、熊野灘の定置網への入網もきわめて低調でした。

### 【漁況予測（平成17年1～6月）】

- (1) 漁獲対象：1才魚（平成16年生まれ）主体に期の後半は0才魚（平成17年生まれ）も漁獲される。
- (2) 来遊水準：前年並から前年を上回ると考えられます。

説明：

ウルメイワシ太平洋系群の資源水準は過去20年間で中位、動向は最近5年間で横ばい傾向にあると考えられています。今期前半の主対象となる平成16年生まれ群は紀伊水道の西（高知県含む）では多く出現しており、この魚が主体となって今期は前年並みから前年を上回る来遊となると考えられます。

## VI シラス

### 【漁況経過（平成16年7月～平成16年11月）】

#### 1 高知県

機船船曳網（安芸地区・春野町・錦浦・田野浦 7漁協合計）による漁獲量は70トンで、前年比25%、平年比59%と低調でした。

#### 2 周辺各県の経過

宮崎県：県内8漁協による平成16年7～10月の総漁獲量は796トンで、前年比32%、平年（平成11年～平成15年）比59%でした。

愛媛県：吉田町漁協による共販取扱量は12トンと前年（45トン）及び近年（24トン、平成11年～平成15年の平均値）を下回りました。

和歌山県：紀伊水道パッチ網は86トンで、前年比53%、平年比55%と低調でした。紀伊水道外域のパッチ網は28トンで、前年比164%、平年比74%でした。

### 【漁況予測（平成17年4～6月）】

- (1) 漁獲対象：0才魚（平成17年生まれ）
- (2) 来遊水準：前年並から前年を上回る。

説明：

前年の春には黒潮が四国沖で著しく離岸し、それに伴いシラスの漁獲量が落ち込みました。今期はそのような黒潮の著しい離岸は生じないと予測されており、前年は上回る漁獲が期待されます。